

場面	対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	予想される二次災害	2次避難	安全確認	情報収集 被害状況把握	保護者へ連絡・引き渡し	防災拠点機能	
授業中	校長・副校長	地震発生	<緊急放送で安全確保の指示> <テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報入手>	統轄本部設置 校長は、校長室(職員室)で指揮 <緊急放送で全校避難を指示> 副校長は、すぐに校庭へ	<人数と安否確認> 担任→学年主任→本部 ①周囲の被害状況の把握 ②二次避難の準備・計画 ③負傷者の確認と手当 ④児童の不安緩和 ⑤病院等の医療機関との連携	津波の影響を受けないと予想される学校	<安全な場所への避難指示> ①校庭 ②近隣の公園 ③地域防災拠点  ※事前に場所を決めておく	<人数と安否確認> 担任→学年主任→本部 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携	<学校教育事務所へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <区災害対策本部へ連絡> ※防災無線、FAXの活用	<統轄本部で情報収集> ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認	<区役所との連携> <防災拠点運営の支援>	
	教職員		<的確な指示> ①「頭部をまもれ」 ②「机の下にもぐれ」 ③「机の脚をもて」 ④「安心するような声かけ」	<各教室で避難> ①自席に座って静かに待機 ②けが人等の確認 ③教室以外の場所にいる児童は、近くに居る教員と自分の教室に移動。 ④個別支援級児童は個別支援級へ移動または、所在の伝達	<1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:FAX)  救出・救急医療班 活動開始 消火・安全点検班 活動開始		校舎倒壊 火災発生	<校庭へ避難誘導> <的確な情報を与え、落ち着くように指示>  救出・救急医療班 活動継続 消火・安全点検班 活動継続	<施設被害状況の把握> <危険箇所の立入禁止措置>	<役割分担に従って行動> ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている児童への対応(養護教諭中心に)	保護者へ連絡 ①メール等による連絡 ②緊急連絡網等	地域防災拠点マニュアルに沿って支援開始
	児童		<揺れがおさまるのを待つ> 机の下にもぐり、落下物から身を守る	<静かに人数確認をまつ> 必要に応じてヘルメットや防災頭巾をかぶり、座って待つ。	<負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ		<落ち着いて移動> ヘルメットや防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きのまま移動 <おかしもの約束> おさない かけない しゃべらない もどらない	<負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ	<避難場所で静かに待つ> <指示に従って、帰宅準備を行う>	<下校> ①保護者への引き渡し ②留め置き		待避場所の確保 食糧の確保 保護者への連絡継続
登下校中	校長・副校長	地震発生	児童+F7:M22	統轄本部設置 校長は、校長室(職員室)で指揮	<安否確認> <1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:FAX)	校舎倒壊 火災発生	○校舎倒壊・火災発生 <校舎等からできるだけ離れた場所への避難指示> ①校庭 ②近隣の公園 ③地域防災拠点	<人数と安否確認> 担任→学年主任→本部 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携	<学校教育事務所へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <区災害対策本部へ連絡> ※防災無線、FAXの活用	<統轄本部で情報収集> ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認	<区役所との連携> <学校教育事務所との連携> <防災拠点運営の支援>	
	教職員		災害対策本部設置	<情報の収集> ①学校に登校児童の確認 ②帰宅した児童の安否確認 ③校内施設被害状況の把握 ④危険箇所の立ち入り禁止措置	<的確な情報を与え、落ち着くように指示>  救出・救急医療班 活動継続 消火・安全点検班 活動継続		<役割分担に従って行動> ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている児童への対応(養護教諭中心に)	保護者へ連絡 ①電話による連絡 ②緊急連絡網等	地域防災拠点マニュアルに沿って支援開始			
	児童		<揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護	<安全な場所へ避難> 揺れが収まる → 近い方に避難(保護者が不在の場合は学校へ) 学校 校庭等、安全な場所に避難 自宅 帰宅した場合は、学校へ連絡	<学校> ①教員の指示に従い、落ち着いて行動する ②防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きのまま移動		<自宅>(保護者とともに) ①出来るだけ高い場所へ避難(津波に備えて) ②落ち着いたら、市の指定した広域避難場所へ	<避難場所で静かに待つ> <指示に従って、帰宅準備を行う>	<下校> ①保護者への引き渡し ②留め置き	待避場所の確保 食糧の確保 保護者への連絡継続 不安を抱えた児童		
校外学習等	校長・副校長	地震発生	<安全確保を最優先> ①地形や滞在場所の状況を判断し、安全確保を指示 ②公共交通機関を使用している場合は乗務員の指示に従う	<揺れがおさまるのを待ち、安全な場所への移動を指示>	<学校へ連絡し、状況を報告、指示を受ける> <地元公共機関等へ連絡し、救援要請を行う>	津波の影響を受けると予想される地域にいた場合  大津波警報	<地元公共機関等の指示を受け、近隣ビルの最上階又は近くの丘陵地への避難誘導> <津波情報の確認と最新情報入手> <学校へ詳細を連絡し、指示を受ける>	<人数と安否確認> ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童の不安緩和 ④地元病院等の医療機関との連携	<学校における今後の対応策の検討> ①現地からの報告を受け、学校教育事務所に報告 ②保護者へ連絡 ・現状の説明(安否についても) ・帰校方法等について  ③現地から帰校させる交通手段等の手配 ④地元公共機関への応援要請 ⑤現地への教職員派遣			
	教職員		<揺れがおさまるのを待つ> 安全な場所へ退避させる	<児童を安全な場所へ移動させる> <公共交通機関を使用している場合は、乗務員の避難指示に従う>	①区役所 ②近隣の小中学校 ③警察 等							
	児童		<揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護	<安全な場所へ避難> ①教員や公共交通機関の乗務員の避難指示に従う ②教師とはぐれた時は、動かさず、その場で待つ	<負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ		<教員や地元の方々の指示に従う> ①落ち着いて行動する ②勝手な行動をとらない ③教師とはぐれた時は、近くの大人を頼って避難し、学校に連絡する。			※県外(特に自然教室、修学旅行等)で校外活動中に、横浜市内で大規模地震に伴う被害がでた場合は、学校または学校教育事務所に連絡し、具体的な指示を受けてから活動する。(特に横浜に向かって移動中の場合)		